

隆盛する生涯学習－学習成果を地域づくりに

ちばぎん総合研究所 受託調査部長
小松 孝之

2006年に改正された教育基本法に、初めて生涯学習の理念が掲げられた。それによれば、生涯学習とは、「自己の人格を磨き、豊かな人生を送るため、生涯にわたり、あらゆる機会にあらゆる場所で学習すること」とある。この数年、自治体の総合計画策定や観光振興など地域づくりのお手伝いをしている中で、この生涯学習が盛んになっていることを感じる。

学習内容は、中高年を対象とした趣味や教養の講座、文化・レクリエーション活動が多く、形式は単発のものから連続講座など様々である。最近の健康ブームを背景に、子どもからお年寄りまで幅広い層を対象とした各種スポーツ教室も数多く開催されている。

また、市民大学あるいは市民カレッジと称し、地域の歴史や文化、まちづくり、健康・福祉などについて、時間をかけてより深くじっくり学習する形態も増えている。市民団体やNPOなどが行政と連携して開催する講座や勉強会も多い。

内閣府が08年5月に実施した「生涯学習に関する世論調査」によると、過去1年間に生涯学習を実施したことがある人は48.6%で、そのうち43.8%の人が「自分の人生が豊かになっている」と答えている。また、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を自分以外のために活かすことの必要性について、「活かすべきである」と答えた人が84.2%と高い結果となっている。

千葉県でも、近年、地元の自然や産業、歴史・文化を学び、学んだことを地域づくりに活かす取り組みが少しずつ増えてきた。観光分野を例にとれば、地域の魅力を来訪者に紹介する観光ボランティアガイドの活動が挙げられる。

07年春のちばデスティネーションキャンペーンやその後の春・秋の観光キャンペーンでは、多くの地域で観光ボランティアガイドが活躍した。県のホームページには、このような観光ボランティアガイドの組織が34団体紹介されているが、これらの中には生涯学習講座の修了生が集まって組成されたものも少なくない。

観光だけではなく、健康づくり講座を受講した人たちが集まってウォーキング等のサークル活動を始めたり、あるいは、福祉関係の講座の修了生が仲間と一緒に高齢者や障害者の生活支援等の活動に参加したり、里山の自然講座の参加者がNPO活動に加わって地域の里山保全や子どもたちへの環境学習会を開催するなど、環境や健康・福祉などの分野でも生涯学習で学んだことを地域社会に活かそうという取り組みが徐々に増えてきた。

また、教える側についても、講座の修了者がさらに勉強を重ねて講師を務めたり、元社会科教師等が集まって地元の歴史・文化を研究し、その成果を活かして郷土学習の講座を開くなどの事例も見られる。

生涯学習に参加して学んだことやそこで得た仲間とのつながりを、地域づくりの様々な分野で活かすことは、地域の課題解決や活性化あるいはコミュニティの醸成

につながる。生涯現役で学び地域で活躍したいという住民の思いと行動は貴重であり、このような取り組みがさらに広がることを期待したい。

| | | | | | | |
|------------------|------------------|-------|---|-------|----------------|-------|
| この1年間の生涯学習の実施状況 | したことがある | 48.6% | 《上位3項目・複数回答》健康スポーツ(22.5%)、趣味的なもの(19.8%)、パソコン・インターネット(14.0%) | | | |
| 生涯学習の成果の活用状況(注) | 自分の人生がより豊かになっている | 43.8% | 健康維持・増進に役立っている | 41.6% | 家庭・日常生活に活かしている | 37.5% |
| 生涯学習に対する今後の意向 | してみたいと思う | 70.5% | 「してみたいと思う(47.7%)」+「どちらかといえばしてみたいと思う(22.8%)」 | | | |
| 身につけた知識等を活用する必要性 | 活かすべきである | 84.2% | 「活かすべきである(44.5%)」+「どちらかといえば活かすべきである(39.7%)」 | | | |

(注)上位3項目(複数回答) (出所)「生涯学習に関する世論調査」(内閣府、2008年5月)